

浄土

monthly
JŌDO

January 2007

1





念仏申すには、またく様もなし

ただ申せば極樂に生まると知りて
心をいたして申せば参ることなり

千葉県・浦安

大蓮寺

寺に歴史あり
人々に信仰あり
日本の
心の故郷を紀行する

大蓮寺
紀行



光緑山勢至院大蓮寺本堂と大蓮寺第二十一世江口定信前住職と第二十二世江口隆定新住職。新住職へと法灯が傳承されたのは平成十八年十一月四日だった





大蓮寺本尊、阿弥陀如来坐像。第五世の時に小田原の寺から招かれた尊像で恵心僧都作と伝えられている

大蓮寺本堂の内陣。昭和二年に建てられた伽藍で、第十九世仁譽住職が復興した



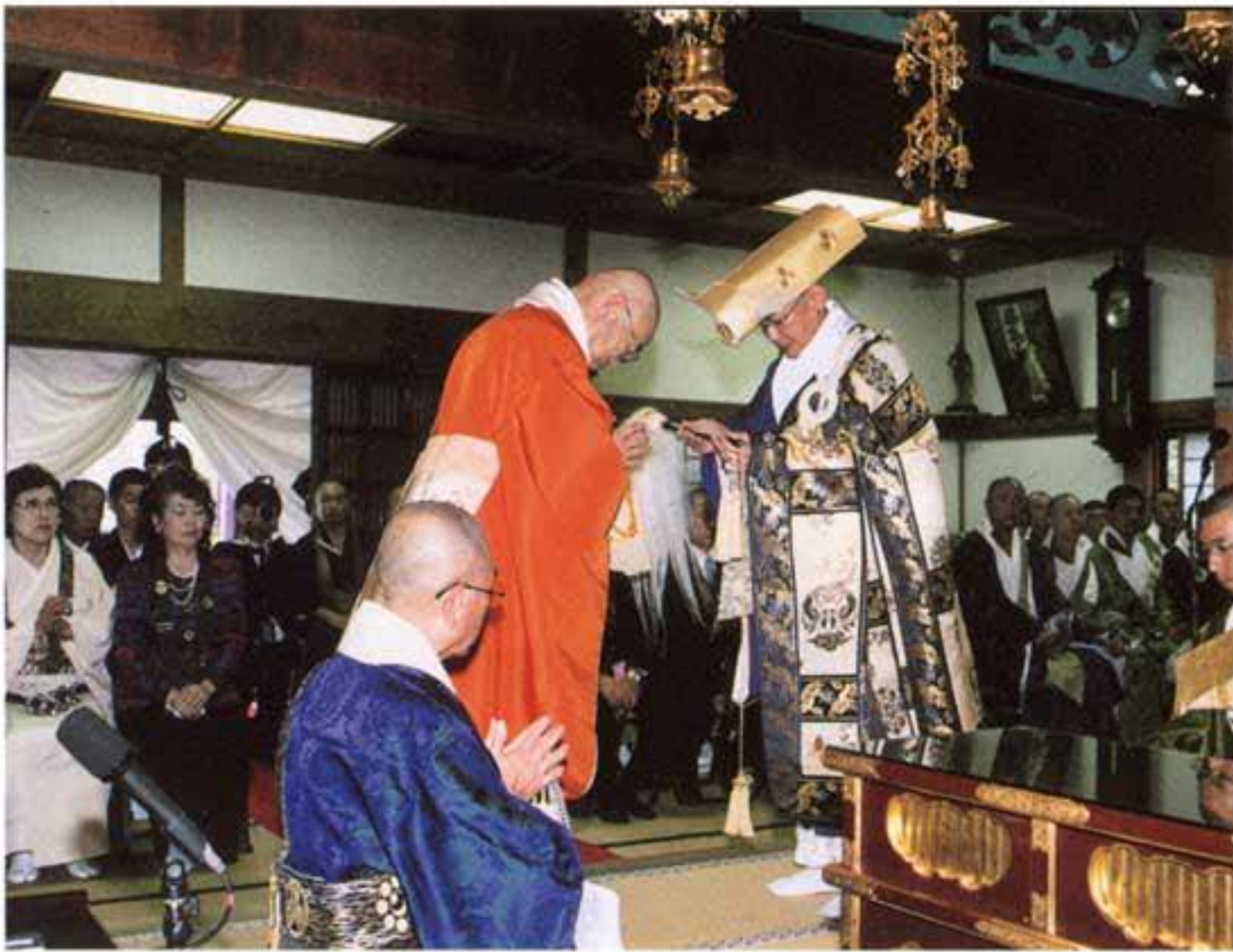
大蓮寺第二十二世江口隆定住職、温和で笑顔が優しい僧侶だ



大蓮寺が建立されるきっかけとなった勢至菩薩像。火災にあって表面は黒こげになっているがその威厳はいまも変わらない



先代であり、父でもある定信住職から
弘子を受け取る隆定上人



先代定信住職は浄土宗大本山増上寺の
執事長を務めていることもあり、法
灯傳承式の退任式では増上寺法主
成田有恒台下はじめ、執事の皆さん
が法要で式衆を勤める盛大なもの
になった



式後に撮られた記念写真。新住職に
は三人の男の子がいる。長男直定君
高校二年生、次男定晃君高校一年生、
三男幸定君中学一年生



勢至菩薩像が祀られている三夜様と呼ばれるお堂。いまでは安産祈願で訪れる参詣者が手を合わせている



昔の漁師町の面影を今も残す堀江ドック。ちなみに写真の船は青べかではない。青べかはもっと小さい船だ



大蓮寺の入口は狭いが、その分正面
本堂までの参道が引き立つ

大蓮寺の基盤となる常念仏田を寄進した増上寺第三十九世学譽阿闍上人。大蓮寺第五世のもとで出家した



浄土

2007/1月号 目次

カラーグラビア寺院紀行 浦安 大蓮寺	写真=タカオカ邦彦	1
いじめを考える	ひろさちや	6
表紙の言葉	桜井良夫	13
寺院紀行 浦安 大蓮寺	真山 剛	14
江戸を歩く 第三回	森 清鑑	22
会いたい人 和田誠さん③	関 容子	26
響流十方	小村正孝	34
シネマ随想	袖山榮真	38
Jフォーラム		43
浄土誌上句会	選者=増田河郎子	44
マンガ さっちゃんはねっ	かまちよろう	47
編集後記.....		52

表紙題字=浄土門主 中村康隆猯下
アートディレクション=近藤十四郎
協力=迦陵頻伽舎



をい
じめ
考える

ひろゆき

▼動物の世界にはないいじめ

「いじめ」の問題は、一つの前提を置いて考えたほうがよいと思います。それは、

——人間という動物は、いじめが大好きなんだ——

ということです。あるいは、これが結論になるかもしれません。

動物の世界にはいじめはありません。

そりゃあね、動物の世界においても、縄張なわばり（テリトリー）が侵されたときは、侵入者に対して攻撃を加えますよ。鮎ともづりの友釣などは、その習性を利用したものです。けれども、動物の場合、逃げて行った者を追いかけてまでいじめることはしません。逃げた者を追いかけていじめるのは人間だけです。したがって、いじめを定義するとすれば、

——必要のない者に対する攻撃——

となるでしょうか。動物の世界においては、必要のある場合にしか攻撃はなされないのです。ついでに言っておけば、アメリカがイラクを攻撃するのはいじめです。それに荷担している日本の与党政府もいじめをやっているのです。だから、日本の与党政府に子どもたちのいじめを解決する能力はありません。わたしはそう思います。

それから、動物の世界にも喧嘩があります。しかし、動物が喧嘩をしたときは、負けたほうがすぐに降参のサインを出します。すると、勝者はそれ以上の攻撃をしません。そこで攻撃がストップされるように、動物は本能的に仕組まれているのです。たとえば、犬どうしが出会くと、威嚇動作をします。それに負けたほうは尻尾を巻いて逃げます。強者は逃げた者を追いかけません。威嚇動作だけでは決着のつかないときは喧嘩になります。そ

して喧嘩に負けたほうは降参のサインを出します。犬の場合は、自分の喉頭のどくびを相手に向けるのです。そこを攻撃されると、致命傷を負う。わざわざそこを相手に向けるのです。そうすると勝者はそこを攻撃できません。それで攻撃がストップされるのです。

ところが、人間は、この本能が毀こわれてしまった動物ですね。勝者が敗者を、強者が弱者をいじめます。こんな動物は人間だけです。ということは、

——勝者・強者が敗者・弱者をいじめる——

のがいじめの本質なんです。ね。“弱い者いじめ”といった言葉があるように、負けた者が執拗にいじめられるのです。これも明らかに unnecessary いじめです。

▼いじめの淵源は競争原理である

いじめの本質がおわかりいただけでしょうか。人間だけがいじめをする動物です。

では、なぜ人間はいじめをするのでしょうか？　じつは、いじめの淵源は、

——競争原理——

にあります。競争をすれば、そこに勝者と敗者が生じます。そうすると、勝者が敗者をいじめる。それがいじめです。

だが、早合点をしないでください。一般に動物の世界は競争原理で成り立っていると思われていますが、それはまちがいです。動物の世界は、

——共生原理——

によって成り立っています。詳しいことを論ずる紙数がないので省略しますが、たとえば今西錦司が提唱した「棲み分け理論」などが共生原理です。犬の世界での喧嘩は、表面

的には競争原理のように見えますが、強者が弱者を攻撃しないことからわかるように、あれも共生原理なんです。

とすると、競争原理は人間社会にだけある原理です。しかしながら、人間社会には必ず競争原理があるかといえ、そうではありません。日本においても、たとえば縄文社会は共生原理にもとづいていました。競争原理が採り入れられたのは弥生時代になってからです。でも、この点でも早合点しないでください。弥生時代になって日本の社会が競争原理だけにもとづく社会になったかといえ、それは違うのです。社会のベースにあるのは共生原理であって、それにちよっぴり競争原理が採り入れられたのです。社会全体が競争原理にもとづく社会になれば、人間はとも生きにくくなります。先回りして言うておけば、いま日本の社会はとも生きにくくなっています。それは日本の与党政府が競争原理を盛んに煽^{あお}っているからです。いじめを助長しているのは日本の与党政府です。

ともかく、競争原理を採り入れると、その社会はとも生きにくい社会になります。そこで宗教が、それに歯止めを掛けるのです。

——競争をしてはならない、互いに助け合って生きよ——

ほとんどの宗教がそのように教えています。なかには競争を煽り立てるような宗教もありますが、そのような宗教はわたしに言わせるならインチキ宗教です。釈迦やイエスは、「競争はいいものだ。大いに競争しなさい」と言っではいませんよね。

だが、いくら宗教が「競争するな！」と教えても、社会のほうでは競争原理を導入する必要があります。とくに資本主義社会は、経済発展のために競争原理を採用する必要があります。しかし、競争原理を導入するに際しては、たとえばヨーロッパの諸国がそうです

が、競争の行過ぎを避けるために、さまざまな工夫がなされています。その工夫の基本精神は、

——ノブレス・オブリージュ——

です。このフランス語は「高貴なる者の義務」といった意味ですが、社会的に地位が高い者には大きな義務を課すことです。要するに競争の勝者には、敗者よりも義務が大きくなります。それゆえ、勝者が敗者をいじめるとはしてはならないのです。日本の社会にはこのようなノブレス・オブリージュの精神が確立されていないから、いじめが行われるのです。

▼仏の子を親は預かっている

いろいろと論じなければならぬ問題がありますが、紙数の関係で省略します。わたしたちが考えねばならぬのは、では、どうすればいいか、です。学校にいじめが蔓延まんえんしている現代日本社会にあつて、わたしたちは何をすべきであり、何ができるでしょうか？

そう問われたとき、これを行政の問題に摩すり替えてはいけません。いじめの問題は、政治や行政によって解決できないからです。日本の与党政府は経済発展のために、日本の社会に競争原理を定着させてしまった。これでは逆に、いじめはますますひどくなるばかりです。

では、どうすればいいのでしょうか？

いまこそ、宗教の出番です。仏教が発言すべき秋ときです。

仏教は、日本の政治・経済・社会に向かって、「ノー」と言わねばなりません。すなわち、

「競争原理にもとづく社会にしてはいけない！ 共生原理こそが、社会の根本精神なのだ」と声高らかに言うべきです。

もちろん、そんなふうによえば、政治家・財界人から大反発を受けるに違いありません。競争原理がなければ、経済の発展ができないからです。

しかし、わたしたちは、なにも経済発展なんて必要ないのです。仏教は、われわれに、

——少欲知足——

を教えてくださいました。欲望を少なくし、足るを知るころを持て！ というのが仏教の根本の教えです。貧しくたつていい。しかし、わたしたちはみんな仲良く暮らしたいのだ。そう言うべきです。

いいですか、よく考えてください。子どもたちはみんな仏子ぶつしですよ。仏の子どもです。われわれは仏の子どもをお預りしているのです。子どもは親の所有物ではありません。ほとけさまからお預りしているのです。

その仏の子を、競走馬にしてはいけません。日本の学校教育は、子どもたちを競走馬にしようとしています。競走馬にされると、負けた者は傷つきます。と同時に、競走に勝った者も傷ついているのです。勝者は驕慢きょうまんになり、やさしさを失います。そのとき、勝者は人間の心を失っているのです。ということは、競争によっては、勝者も敗者も傷つくわけです。競争によって利益を得るのは、競争させている側です。すなわち、大企業が得をします。その大企業のための政治をやっている与党の人々が、競争原理を煽っています。わたしたちはそれに乗せられてはなりません。

だから、学校を遊びの場にすればいい。そうすると、すぐにいじめはなくなります。学

校が競争原理によって運営されているからこそ、いじめが起きるのです。

でも、学校を遊びの場にすることは、いまの政府与党ではできません。

だとすれば、わたしたちは学校を軽視するようにしましょう。

「学校なんてどうだっていいんだよ。学校の成績のいい奴が、人生における成功者であった例はそれほど多くない。学校でピカ一だった奴が、のちに刑務所に入った例がわりと多い。だから、学校のことは、そんなに気にするな。行きたくなければ、行かないでいいよ」親が子どもにそう言ってやると、たぶんいじめが少なくなると思います。それぐらいのことは、仏教者であれば言ってやりましょうよ。だって子どもは、ほとけさまからの預りものです。ほとけさまは、勉強の好きな子は勉強好きのまままで幸せにしてやってほしい、勉強の嫌いな子は勉強嫌いのまま幸せにしてやってほしいと願っておられるのですから。

表紙の言葉

え
桜井良夫

1月

大本山

増上寺

画家桜井良夫氏は神出鬼没。根岸の居酒屋にいたかと思えば、銀座の舗道を遊歩している。絵筆をとれば自由闊達。画材は何でもいい。店にあった紙ナプキンにさらさらと酒壺を描き、目の前の果実を描く。速い、速い。劇場公演の大道具、巨大なお月さまを組上げたかと思えば、あっという間に撤収する。まるで魔法のようだ。

この人が増上寺三門を描いた。翌日には鎌倉に飛んだ。とって返して隅田川風景をスケッチ、東京駅を描く。青山で、目黒で、世田谷で、ふらりと立止まり、写生する。そして今回は次々に浄土宗寺院を描いた。

今年の月刊『浄土』の表紙は、この桜井良夫氏に依頼することになった。京都にも行ってもらうことになる。乞ご期待。

(編集部・佐山)

寺院紀行

千葉県・浦安

大蓮寺

撮影／タ力才力邦彦

文／真山剛



法灯傳承式の前に行われたお練行列。およそ五百人の行列が堀江町のフラワー通りを約一時間かけて練り歩いた。江口隆定新住職も緊張気味だ

昔は時の鐘といって鐘の音が時を告げていた。いまでもお寺の鐘が朝晩撞かれることもあるが、何といっても、新しい年を迎える除夜の鐘である。

ゴーン、という鐘の音を聞きながら新しい年に向けての決意を心の中で囁み締める。平成十八年の除夜の鐘にも多くの人が自分の夢や目標に向け、その音が心に響いたに違いないが、そうした一人に今回の寺院紀行で訪れた千葉県浦安の大蓮寺、江口隆定新住職がいる。

平成十八年十一月四日、大蓮寺で第二十一世から第二十二世への引継ぎ式である法灯傳承式が行われ、新住職に就任したが、その初めての行事が除夜の鐘だ。一撞き目が住職としての第一歩でもある、感無量だったに違いない。

さて、この新住職のお披露目のお練行列が法灯傳承式の前に行われた。大蓮寺のある堀江町のメインストリート、フラワー通りを地元の木遣り、お稚児さん、詠唱のご婦人方、そして百人もの僧侶を含む総勢五百人にもなろうかという大行列で練り歩いたのである。東西五百メートルの通りが行列者の華やかな衣装で彩られ、地元住民はもちろん、隣町から見物者がやってきた。

このお練行列を新住職がこう振り返る。

「お練行列では長時間にわたり交通を止めてしまったのですが、地



昭和二十五年に復興した鐘楼。新住職の初めての行事がこの鐘を撞く除夜の鐘になった

元の方々をはじめ、みなさんが何の文句も言わずに協力してくれたのです。大蓮寺というお寺がこの町にとってどういいうお寺なのか、四百六十年の歴史を改めて思い知らされた気がしました」

さて、浦安と聞いてすぐ頭に浮かぶものが二つある。

東京デイズニーランドと小説『青べか物語』の二つだが、読者はどちらが先に浮かぶだろうか。

東京デイズニーランドは日本でもっとも人気のあるテーマパーク。そして『青べか物語』は山本周五郎が、かつて自分が浦安で生活していた頃を描いた作品で、漁師町浦安のシンボルであった舟底が平らで青く塗られた小舟、「青べか」を題名にした小説である。

山本周五郎が描いた浦安は、昭和初期の浦安で、その頃の浦安は大蓮寺のある堀江に、猫実、当代島という三つの町だけで、それこそ東京に隣接しながら交通の便のよくない小さな村だった。そして、海苔とアサリと沿岸漁業が浦安という村を支えていた。この漁師町ならではの人間模様はそれこそ『青べか物語』の世界だが、その登場人物の一人に大蓮寺の先々代住職も加わっている。

だが、その漁師町浦安は大きく変貌した。

今回の法灯傳承式のもう一人の主演である大蓮寺第二十一世江口定信前住職はこう話してくれた。

「ここは日本で一番変化した町だね。地下鉄東西線が開通し、東京



漁師町の面影を残す浦安魚市場。浦安駅からすぐのところにある

デイズニーランドができ、JR京葉線が通り、新しい浦安という街がまさに誕生したんだな」

現在の浦安市の面積は16.98km²だが、埋め立てが始まる前の面積は4.43km²。かつて「青べか」が行き来していた海は地面となり、浦安市の面積は四倍になり新しい街ができた。地面が増えれば同時に人も増える。昭和四十年の人口、一万八四六三人が、平成十八年十月末で十五万六八八一人。四倍になった地面の倍、八・五倍にもなったのだ。

この目に見えるきっかけは、昭和四十四年に開通した地下鉄東西線の浦安駅。浦安駅は東京の中心、日本橋駅まで十七分。そして平成二年にはJR京葉線が東京駅に乗り入れたが、新浦安駅から東京駅までもたったの十八分。こんなに便利な街が、一昔前まで海だったところにあつたという間にできてしまったのである。まさに江口前住職の言葉通りである。

そして実は目に見えないきっかけが、東京デイズニーランドである。東京デイズニーランドの開園は昭和五十八年だが、計画自体は昭和三十二年から始まっている。この計画をきっかけに海面埋め立て事業が始まり、昭和四十六年の漁業権全面放棄につながっていく。つまり、『青べか物語』の浦安を東京デイズニーランドが変えてしまったのである。



大蓮寺歴代住職の墓

いまでも漁師町の面影を残すのが堀江ドッグだが、その同じ堀江にある大蓮寺は漁師によって支えられてきた寺だ。その漁師が漁業権を放棄してしまったのだから、お寺も大きく変わったに違いない。先代住職に聞いてみた。

「うーん、一言でいえば物の生活がお金の生活に変わった、ということだな。昔の浦安の良さは泥臭さであり、温かさだった。暮には正月用のお供え（お餅）とお賽銭をみんなが持ってきてくれた。それを水餅にしてとっておいて、正月から三月まで食べてたね。彼岸にはおはぎや五目ごはんを作ってくれた。

そして、今年の餅はうまく搗けたとか、おはぎがちよっと甘すぎるとか、手作りの物を通してコミュニケーションしていた。それが変わった。今ではお布施と書かれた封筒にお札が入っている。そりゃ、挨拶やおしゃべりもなくなってしまうさ。

でも、これは何もこの大蓮寺だけでなく、都市化した地域の寺はどこも同じでしょう。時代の流れというか波というものは止められないものだからね」

そして、今回の住職交代もやはり時代の流れという。定信前住職はかつて副住職の時に、自ら先代一定住職に「この寺を俺に譲ってくれないか」と申し出たという。お墓の草むしりを一緒にしていた時だ。数日して、住職が副住職を寿司屋に誘い、「わかった、この



江戸時代中期に夢のお告げもあり、正一位の位をとるとともにお稲荷様から久助稲荷となった正一位久助稲荷大明神。大蓮寺境内にあり、地元の人々の信仰を受けている

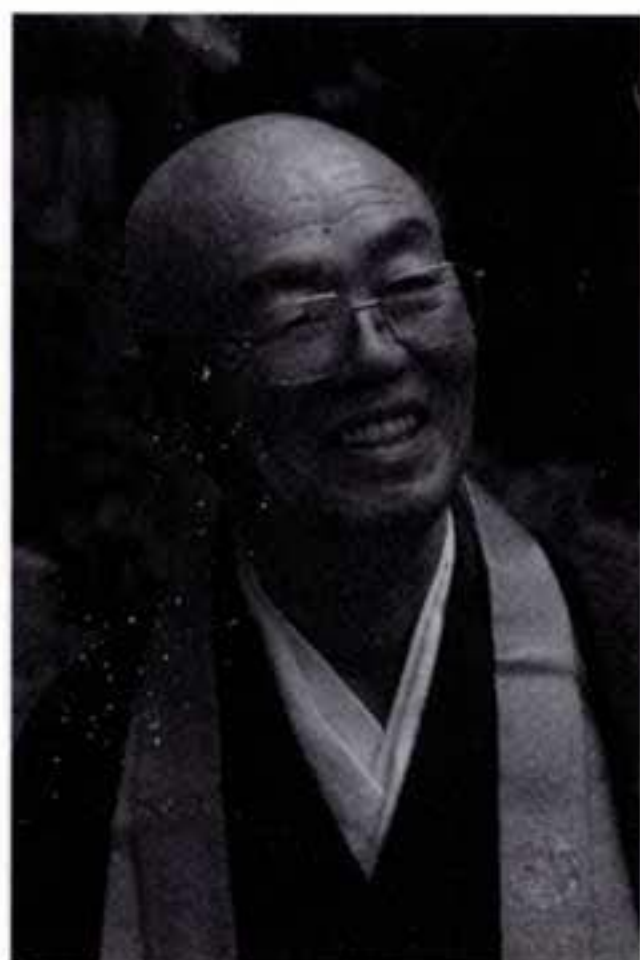
寺をお前に譲ろう」と法灯が継承された。だが、しばらくして自ら言い出した事を後悔したという。目に見えて何か失敗があったわけではない。が、流れを無理に変えたような気持ちになったという。その経験から今回の法灯継承をはやくから副住職に伝えていたという。そして、なぜこの時期かを前住職はこう語る。

「今がこれまでの良き時代の区切りとなる。たとえば今はまだお練行列ができるが、間違いなく自然にまかせていたらこれからはできなくなる。時代は大きく変わっているからね」

大蓮寺の境内には久助稲荷があり、この大祭を今でも二日間に行ったり行っているが、ここ浦安にあった大師講、庚申講、白山講など多くの講のうち、うまく世代交代できなかった講中は無くなっているという。

大きな時代の転換期に新しい住職が必要とされているということなのだろう。

大蓮寺の創建は古く、今を遡ること四百六十年前の天文十三年（二五四四）、小田原から諸国行脚の旅に出ていた僧が浦安を訪れ、たまたま覗いた小さなお堂の勢至菩薩像に魅入られたことに端を発する。お堂に祀ってあった像は三年前の天津波の時に堀江の浜に打ち上げられたもので誰ともなく祀ったものだった。その像のために旅に路銀を喜捨する気持ちに庄屋も動かされ、元のお堂の倍ほどの



大蓮寺第二十一世江口定信住職。諸役を歴任されてきた浄土宗の重鎮の一人だ

庚申さまが鎮座する中庭。先代定信住職は庭作りが好きで、二河白道や二十五菩薩来迎を表す庭など四つの趣きある庭園を作っている



お堂が建てられ、旅の僧、覚譽存栄上人が開山となり、小田原の自分のお寺と同じ名前の大蓮寺と命名したのである。時が下り第四世の時には火事に遭い、勢至菩薩は黒焦げになるが、不思議と毅然と立っていた。今もその時の姿のまま本堂前のお堂に祀られ、いまでは安産祈願で多くの人が手を合わせている。

そして、第五世頓譽上人の頃にはお参りも増え、寺子屋が始まった。その生徒の一人で、葛西の堀江新田に住む田中佐次兵衛の子が優秀で、頓譽上人はその子を弟子として出家させた。やがてその子は立派な僧侶になり、学譽問鑑と名を改め、浄土宗の本山である増上寺の第三十九世法主にまで昇り詰める。そして自分を育ててくれた大蓮寺の興隆を思い立ち田地を購入し、大蓮寺に寄進し、この田の年貢米を糧とし、大蓮寺が常に念仏できるようと常念仏田としたのである。これが現在の大蓮寺の礎となっている。もちろん以来多くの困難な時期もあったが、歴代の住職たちがその法灯を絶やすことなく守り続けてきた。

そして、今回の法灯傳承式となるのだが、先代定信前住職は増上寺の執事長を勤めていて、大蓮寺住職退任後は増上寺の管理する飯沼（茨城県水海道市）の弘経寺の住職として本山の仕事に専念することになる。まさに常念仏田の恩返しである。

こうして外に出られる先代の後を引き継ぐ新住職も全国浄土宗青



参道の途中にある山門。入口と本堂のちょうど真ん中くらいに位置する

年会の理事長という大役を終え、大蓮寺の法務や行事に専念される。ちなみに新旧住職の経歴書を見て驚いたが、お二人方ともその経歴がすごい。浄土宗の各種役職、地元から全国、本山まで幅広い。中でも目を引いたのが、青年会の理事長だ。浄土宗では宗祖の法然上人が一宗を開かれた四十三歳までを青年僧とするそうだが、その青年会で関東ブロックと全国での理事長を父と息子が共に務めてきたことだ。おそらく浄土宗僧侶多しといえども唯一のケースだろう。同時に浦安市の要職もこれまた二人そろって経験されている。とにかく内に外に飛び回られてきたようだ。

最後に新住職に抱負を聞いてみた。

「以前から住職を譲るという話は聞いていましたので、覚悟はできてますが、いざ自分が住職となってお寺を仕切ると思うとそれは不安ですね。これからはまさに自分次第ですが、変な言い方になります、まわりの方々に迷惑をかけたり、かけられたり、そういう関係が築けたら、と思います」

この新住職の思いが除夜の鐘の音にのって堀江の町の隅々にまで広がってゆくのである。

(ルポライター)



大蓮寺脇を流れる堀江。昔はここを青べかが行き来していた

江戸を歩く

第二回

森清鑑

大江戸ウォーカー

高輪の大木戸

江戸安政期に戻って東海道（現在の第一京浜）を品川方面に歩いてみよう。江戸湾に突き出た、薩摩蔵屋敷は東海道に面している。その北には増上寺に向かって将監橋から赤羽橋の範囲でほぼ長方形十二万坪という広大な薩摩藩中屋敷がある。いわば、芝浜の長さをそのまま北側に移動した幅である。蔵屋敷の東海道表玄関前を通り過ぎると、芝田町三九丁目の民家が海沿いと東海道を挟んで連なる。柴田町四丁目、元札の辻に出る。東海道と赤羽橋に行く道の交差点（現代も同じ）。右に曲がって直進すれば、右手、薩摩藩中屋敷の屋敷西側の川と堀。そして赤羽橋に出る。家康は、江戸入府後の慶長六年（一六〇一）、海沿いの東海道を新設した（この時、道幅は6間、10.8mと設定された）。それまでの鎌倉道は、三田台地を登り下りし、赤羽橋に出るルート。これに比べ海沿いに新設の東海道は、実に平坦で、歩きがグンと楽になった。この江戸初期の工事に伴い、札

の辻から赤羽橋に至る道も平坦に整備されたと思われる。事実、江戸期全般を通じ、この道を通る大名行列も多かったのである。そこで、この道と東海道の交差点は重要な場所となった。江戸初期の表玄関となったのである。慶長九年、日本橋が五街道の起点となるまで、東海道の出発点は、「芝」であつた。元和二年（一六一六）この二差路に芝口門が設営された。この門で、全ての通行人はチェックを受ける。夜、門は閉ざされる。そこに高札こうさつが立てられた。高札とは、法度はつと（禁止事項）・掟書おきてがきなどを記した板札のことで、いわば、江戸民衆に施政の実施事項を告知する、政府の屋外告知広告のようなものである。高札場は、その後、五街道を軸に人々が行き交う交通の要所6カ所にできた。だが、この二差路の高札場が古く、そのために「札の辻」という地名が現在に至るも残った。当然、人々の往来も多く、刑場も鈴ヶ森にできる前は、この辺りにあつた。大勢の人々に、見せしめるためである。

札の辻を過ぎると左手は高輪の美しい海の光

景。右手には三田台地が迫り上がっている。この上なく、風光明媚な処である。東海道をほどなく行くと、右手、遠く丘の頂に済海寺さいかいじが見える。三田台地は、海沿いの東海道から見ると迫り上がって見える。その中腹で、元和9年（一六二三）と寛永十五年（一六三八）の二度にわたり、多数のキリシタンの処刑が行われた。当時、東海道を行き交う人々は、この悲惨な光景を眼にしたことになる。

その隣が、三田八幡神社（御田八幡）。そして大円寺。芝田町九丁目の民家がとぎれると東に三田台地をせり登る、伊皿子坂、潮見坂が見える。ここからが芝車町（俗称、牛町）の民家。寛永十一年（一六三四）、増上寺安国殿が建設された際に京都から牛持人うしもちにん促を呼び寄せ、材木や石類の運搬に当たらせた。その時稼働された人々が幕府から土地を付与され、江戸に定住し、町を形成した。そこに、江戸湾に面し、東海道を挟んで、高輪大木戸の石垣がある（現在は海沿いの石垣のみが残されている）。

江戸の拡大にもなつて、宝永七年（一七一〇）、大木戸は、札の辻からここに移され、やがて高札場も移行し（天保二年、一八三一）、新たな江戸の表玄関となった。以後、札の辻が元札の辻と呼ばれるようになる。高輪の大木戸は、当初、門・柵・門番所を備えていた。入り鉄砲に出女を禁じ、夜は門が閉められる。京登り、東下り、伊勢参りなど旅人の送迎もここで行われるようになる。「やじきた道中」の弥次さん、喜多さんもここで親類縁者の見送りを受け、東海道を旅立ったのである。人々は前述の三田神社で旅の安全を祈願し、大勢の見送りを受け、出発する。旅から無事帰ってくると、親類・知人がまた、ここで出迎える。当然、茶店も増え、美味な江戸肴が振る舞われ、繁盛し、人々の往来が激増した。また、ここは、海岸の景色も良く、月の名所であった。そのため、いわば人気観光スポット化したのである。

大木戸の門・柵などの施設は、度重なる火災で焼失し、文政十一年（一八二八）以降は、石垣を残すのみとなった。その後、施設の建て替えは行

高輪大木戸石垣



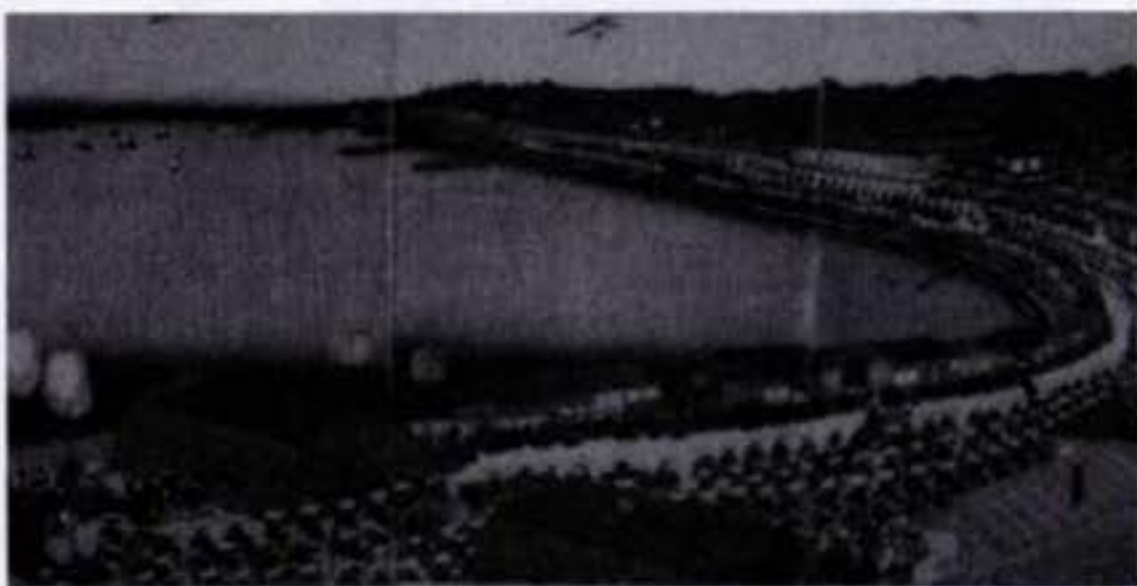
大木戸茶店繁盛の絵図

われなかった。幕府政治が完全に安定したこの頃になると、門の存在意義も薄れてきたのである。

東海道を大名行列が通っている。行列は巨大な石垣（幅約5m、長さ7m、高さ4m）の間を抜け、品川に向かっていく。海にへばりつくようにある民家の前では、庶民が土下座している。都鳥が飛び交い、江戸湾には、帆立船が浮かんでいる。美しい光景である。橋本貞秀のこの絵は文久二年（一八六二）に描かれた。大木戸から品川までは、江戸湾の波が石垣を洗う（平成七年の発掘調査では、三段の石積みが確認されている）。街道の西側（右手）には、車町が広がり、泉岳寺まで続く。牛舎があり、沢山の牛が飼われていた。車置き場には多数の大八車が保管されていた。牛と車そしてここの住民は、江戸三大祭り、赤坂山王神社の祭礼でも、山車^{だし}を牽く権限を持っていた。

（つづく）

大名行列



高輪車町(牛町)

連載

会いたい人 関 容子



撮影／タカオカ邦彦

レミさんのCD『私の旅』を聴いた。中の一曲「誰でも誰かが」が和田さんの作詞作曲。

この曲は、演劇集団「円」に年末恒例の岸田今日子さん企画による「こども劇場」というのがあって、二〇〇四年は和田誠作のミュージカル『パイがいつぱい スパイもいつぱい』だった。そこで歌われた曲。

「ぼくの言葉遊びの絵本を、子供向きの芝居に脚色してくれない?」って岸田さんに言われて、ウーンと考えこんでたら、子供向きでも恋愛があつていいのよ、ということ、たちまちできたミュージカルふうのものなんです。二人の博士、その二人が造ったロボットを盗みにくる二人のスパイ、みんなが恋するというお話です」

で、その曲は、野ばらやそよ風やほたるや、夢や虹や秘密や、美しい言葉が次々出てくる詞章の最後に、「誰でも誰かが好き……」という心優しいフレーズがまるでゆり籠をゆらすように繰り返される。レミさんの声を張ら

ない歌い方がとても粹で、さすがシャンソン歌手だった。

それというのもレミさんの父君はフランス文学者の平野威馬雄さんで、フランスの血を引くからかと思つたが、どうやらそれは違ひらしかった。

「威馬雄さんはアメリカ人の父と日本人の母との間に生まれた人です。祖先はスコットランドのブイ家、家紋もある名家らしい。ブイはデビッド・ボーイのボーイと同じスペルです。威馬雄さんは戦争中アメリカ人の子供では何かと都合が悪いんで、父はフランス人、って言つてたみたいけど、本当にアメリカが嫌いになったのはベトナム戦争のとき以来だと言つてました。そのアメリカ人の父というのは本業は弁護士だけど、ヴァイオリンも弾く、日本に来たら書画を習う、という人だった。威馬雄さんを『レミ』と呼んでたんだって。『家なき子』の主人公の名前のレミ。威馬雄さんは自分が呼ばれてた名前を娘につ

和田誠さんの奥様、平野レミさんのCD「私の旅」。
CDジャケットは和田さんが手がけた。



けたわけなんですネ」

戦後、「レミの会」というのがあったように思うが、それとはどんな関係なのか。

「まだ威馬雄さんの時代は合の子と呼ばれて、ずいぶんいじめられたらしい。それで戦後、米兵と日本の女の人の間に生まれた不幸な混血児を引き取って、世話をしたのがレミの会。だから、お母さんは毎日、大勢の子供の食事を手早く作って出さなくちゃならなかった。それを見て育ったうちのかみさんが、のちに料理愛好家としての一面を持つようになった。

ったのかな」

和田さんが平野家に結婚の許しをもらいに行ったときが、威馬雄さんとの初対面。

「なかなか言い出せなくてグズグズしてたら、君は何かぼくに言いに来たんだろう？ って切り出してくれて、粹なお父さんだった。申しこみのあと、夫婦の似顔絵を描かされたりしたね。結婚後は、平賀源内とか南方熊楠とか宮武外骨とか、ちよつと、変った人物の評伝や、妖怪の研究とか、ずいぶん装丁を頼まれて、これは便利でいい、って重宝がられた（笑）。ある日、午後に打合せで行く約束をすっかり忘れてスッポかして、夜慌てて電話で謝まったら、なに、人間というのは忘れる動物だよ、って許してくれた。洒落た言い方でしょう」

和田さんに映画のことを語ってもらった。

「見出したのは子供のころから。学校で連れてかれる映画はたいてい可哀そうな子どもが

題材。『蜂の巣の子供たち』とか『鐘の鳴る丘』とか。映画は好きだけど、感想文書かされるのはいやだった。中学生のころ初めて女優さんをきれいだなあと思ったのは『東京力チン力娘』の折原啓子。高校に入ってから若尾文子。『十代の性典』とかのね（笑）。これがしばらく続いて、大学のころうんと好きになったのは水谷良重。今の八重子さんね。バタくさいし、声がハスキーでセクシーだし、抜群のプロポーションだし、全部よかった。映画は『花の吉原百人斬り』とか、勝新太郎の『悪名』とかね。彼女のこのときの役名ままで憶えてる。琴糸さんという芸者の役。あのころ宝塚劇場の東宝ミュージカルにもよく行ってたけど、『江戸川乱歩のパノラマ島奇譚』のときには海女さんの役で、海女の恰好で客席から登場したときはドキドキしたね」

なるほど、レミ夫人も含めてバタくさいのがお好きなのか。

「外国の女優さんは、最初のころはテレサ・



映画監督としても活躍される和田さん。
カメラをのぞく姿もさまになっている。

ライトとかジューン・アリスンとか純情可憐型。もうちよつと色気づいてからはジーン・ピータースって『ナイアガラ』のマリリン・モンローと共演した、新婚旅行に来ていて事件に巻き込まれる女性。それから『アパートの鍵貸します』のシャーリー・マックレーンも色っぽいなと思いましたね」

それで映画監督になったキツカケは。

「映画は好きだったけど、自分で作ろうと思ったことは一度もない。降ってわいたような話なの。ある晩、角川春樹さんと飲んで、当時ぼくは角川文庫のCMのアニメ制作とか、『野生時代』にシヨート・シヨート書くとかしてたからね、君はいろんなことやるけど、ほかに何かしたいことあるの？ って言われて、シナリオ書いてみたい、って言った。終り方がダラダラするような映画があると、こう直せばよくなると思ったからね。それで当時読んだばかりの『麻雀放浪記』（阿佐田哲也）をシナリオにしてみたい、と

言ったら、じゃあやってみたら？ って言われてね。で、紙の下半分にシナリオ、上半分に絵コンテをつけて、カメラアングルのことまで詳しく書いてったら、春樹さんが、こんなにイメージがちゃんとあるんだったら自分で監督しなさいよ、って言った。でも映画の経験もないし……今ではいろんな人がすぐ映画撮るけどね、一週間考えさせて、って言った」

和田さんは、助監督から叩き上げたプロのスタッフの間に入って本当に監督がつとまるのか、今抱えている普段の仕事の合間に映画が撮れるのか、二つの問題に突き当たる。

「そのあとすぐ別の酒場のカウンターに一人でいたら、アートディレクターの先輩が来て、何考えてんの？ って訊いてくれた。僕が映画にかかったとして、本業の仕事のこと、と言ったら、そんな大病したと思えばいいんだよ、って。すごい明快な答えで、それで吹っ切れて何か月間か本業は休むことにした。

せつかく角川さんが言ってくれてるのに、断わったらこんな奇特な人は二度と出ないと思つてね、それですぐ電話した。やります、つて」

『麻雀放浪記』（一九八四年）は、真田広之が主演で、以後和田さんの監督作品『怖がる人々』『快盗ルビィ』『真夜中まで』には総て出演している。

「真田君がやった坊や哲の役は、最初無名の新人をオーディションで採るつもりだったけど、プロデューサーがそれじゃ営業的に困る、と言つて真田君の名前が出たんで、会つたの。そしたら本も読んで、やりたい、つて。彼は当時もうアクションスターだったから、これは主役だけど目立たない役で、全体の中に埋没しちゃうかもしれないけど、いい？」と訊いた。普通なら、これはいい役だよ、つて言うのに素人監督だからそんなこと言っちゃうんだね。そしたら、ぼくはそんなこと考えたことありません。よくなりそうな映画に参

加したいだけです、つて。もうその言葉で決まつたね」

この映画にはもう一人、特筆すべき出演俳優がいる。イカサマ麻雀師出目徳を演じた高品格。その年の助演男優賞を総なめにした。「高品さんは元ボクサーで、日活の裕次郎映画に殺し屋の役とかで出てた人。テレビの脇役にチラツと出てるのを見たら、ちようどいい具合に年取つてたから決めた。イカサマの符牒で、明日も天気だろう……なんて淡々と言うのがおかしくて、すごく味があつた。受賞を喜んでくれて、賞なんて脇役時代に精勤賞で時計をもらったただけだった、つて。こんなにいっぱいもらつて、監督の指導のおかげです、つて言うから、違いますよ、たしかにキャスティングしたのはぼくだけど、それだけですよ、つて言つた。実際、監督の一番の仕事はキャスティングで、市川崑さんはそれで八〇％決まる、つて。でもぼくのような素人監督だと九三％くらいそれですね」

高品格はこの映画出演の約五年後に亡くなった。和田さんは祭壇の遺影を見て驚き、胸迫る思いがしたという。

「遺影って普通ちゃんといい服を着たきれいな写真じゃないですか。でも高品さんのはヨレヨレの服着た出目徳の写真だったんです。奥さんにこれを、と言つといたのかどうか知りませんが、感激しました」

和田さんが経験もなしに監督業をしおおせた理由は何なのだろう。

「あとで考えれば、素人が来てやれるのか？みたいな雰囲気もプロの職人さんたちの間にあって、結構試されてたのかもしれないけど、なんとか乗り切りましたね。事前に、どういう監督が嫌われるのか、バカにされるのか、つてことをちよつとりサーチしたら、監督つて決断が仕事なんだ、つて教えられた。たとえば食事のシーンでも、どっちの皿使います？ つて訊かれたら、ウーンと考え込んで

時間つぶしちゃいけない。あの教えは役に立った。パツと答えるようにしましたから。しかし映画を作るのつて、いいですよ。撮影が終るまではスタッフ全員が一心団体になって一つ方向を目ざすじゃない。みんなで力を合せて一つのものを作る。本を作るのだからうだけど、でも人数が全然違うでしょう。四十人とか五十人とかの人間が、同じほうを向いてるといふのは……とても美しいよ」

和田さんが未知の分野を切り開くたびに、必ず新境地を発見する感動がある、というのはじつに幸せなことだ。

「でも計画して目的を持つわけじゃない。こんなことやってみない？ つて言ってくれる人が、ある日降つてわいたように現われる。そんな時、できつこないと思わずに、もしかしたらできるかもしれない、と思つちゃうところが浅はかなんだけど（笑）。その浅はかを生かしてる、つてわけですね」

なんと素敵な生き方だろう！（おわり）

すべての者は暴力におびえる。

すべての（生きもの）にとって生命は愛しい。

己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。

殺さしめてはならぬ。

『ダンマパダ』二三〇偈（岩波文庫『ブツダの真理のことば 感興のことば』）

火葬場へ行く

子どもによる犯罪が後を絶たない。「いじめ」はエスカレートし、他者の命を奪う者もいれば、近頃は自殺も連続して起こっているありさまだ。よく年配者から「昔はこんなことはなかった」との哀調帯びたコメントを耳にするが、人というのは、どうやら年を重ねると過去の記憶は美化される傾向を示すようだし、そもそも子どもの社会は、大人のそれに比べて単純であるが故に残酷性も併せ持っているものだから、「昔はなかった」とのコメントには「？」がつく。ただ、おそらく陰湿かつ、より残虐に、そして数も急激に増えているであろうことは、社会環境の変化、発展し続けている文明からも想像はつく。

ともあれ、なんとかしてこの流れに歯止めをかける必要がある。政府の諸機関はじめ、各自治体、教育委員会などでもいろいろと策を練っているようだが、なかなか一筋縄でいかないのが実情のようだ。そこで、その一助になりはしないかとの期待を抱きつつ、次のような愚案を提してみたい。子どもたちを火葬場へ連れて行くのである。

子どもは、何かの事象について「なぜか」と問い掛けてくる。不思議に思ったこと、わからないことを人に尋ねて理解しようとするのは大いに結構なのだけれども、微笑ましさを乗り越えてときには閉口してしまうこともある。多く

の方にある経験かと思うが、子どもの「なぜ？」に対して「Aだから」と答えると「なぜAなの？」とくる。「Bだから」と答えればすかさず「なぜBなの？」とたたみかけてくる。こちらの答えにも問題があるのかもしれないが、こうなると「BだからBなの！」とシャットアウトしたくもなる。「それも大気ないか……」と思いあぐねていたところへ、藤原正彦氏『国家の品格』。氏は「〈論理〉などというものはあてにならない魔物」とされた上で、「『なぜ人殺しはいけないか』と訊かれたら『駄目だから駄目』、これに尽きる」と断じる。重要なことほど〈論理〉などでは説明できない、というのだ（趣意）。

我われ大人たち、どうもこの〈論理〉というもので子どもたちに説明しようとし過ぎてはいないか。いわく、「なぜあいさつするの?」「なぜ授業中に立ちやいけないの?」論理的に答えようとする大人たちの姿勢が、妙に論理的な子どもに育てているのではないか。反省である。

その反省を込めての「火葬場へ行こう」案。それもできるだけ老舗の、昔ながらの施設そのまま、というところがいい。なぜなら、最近の火葬場は施設の近代化著しく、極めて華美になっていて、そのあまりにも整えられた威容（異容）に、死への恐れや畏れは感じにくいからだ。昔の姿を残す施設の方が、子

どもにより大きなインパクトを与える効果が期待できよう。ただ残念なことに、そうした火葬場は激減していると聞くが……。静かな林、時おり聞こえるカラスの鳴き声。煤で汚れ、少々崩れている窯のレンガ。扉を開け、熱風を吹き出してくる窯に亡骸なきがらを送る。隙間からのぞき見える真っ赤な炎……。これに子どもが何を感じるか。

「死ぬとこうなるのか、もう誰にも会えなくなるのか……」

これでいい。「阿弥陀さまが救ってくれるから、死は怖がらなくていい」などと教えるのは、特殊な場合を除きもっと大きくなってからでいい。

世の中すべてが近代化、便利になりすぎ「影」と映る部分を壊してきている。その「影」が実は人間に規範を促しているという効果もあるはずである。人が自宅で亡くなることが極端に減り、葬儀も明るく立派な葬祭会館で行われることが多くなった。真っ先に子どもが疑問を抱きそうな「人の死」が、結果的に蓋をされているのである。「なぜ命は大切なのか?」「なぜ殺しちゃいけないのか?」の質問もむべなるかな、だ。

親類縁者に不幸があつたら、なるべく子どもも葬儀に参列させ火葬場に連れて行きたい。これも「死に学ぶ」ということになる。

(小村 正孝)

マリー・ アントワネット

監督
ソフィア・コッポラ

©2005 I Want Candy LLC.



2007年1月20日、日劇3他全国ロードショー

「法然上人をたたえる会」副会長にして、「浄光会」会長であられる安倍晋三総理大臣が、しばしば言及される「戦後レジーム」のおそらく語源と思われる「アンシャン・レジーム」なる異国語とともに、我が脳内の「受験期記憶層」の一角を構成する、マラー、ダントン、シャルロット・コルデなどの固有名詞群に属する、マリー・アントワネット、ルイ十五世、十六世、マリア・テレジア、マダム・デュ・バリイはもとより、フェルゼン伯、メルシー伯、プロヴァンス伯、ポリニャック公夫人など、「学習指導要領」圏外の実在人物についてすら、世界史「必修漏れ」の受験生といえども、なにがしかの知識を持ち合せているという、わが国の奇跡にも近い現況は、すべて、池田理代子さん及び宝塚歌劇団の三十年を越す、たゆまぬ薫陶の賜物と言って過言ではあるまい。

このような「ベルばら文化」の中で、この映画のストーリーを述べるといふ愚は、まず

差控えるとして、セールス・ポイントいや、チャーム・ポイントを一言に要約するならば、徹底した「ホンモノ」志向であろう。

その一斑を語るならば、なんと、フランス政府の全面的協力によって、マリーの生活環境たりしヴェルサイユ宮殿そのものが、ロケイションの現場として提供されたのだ！ 彼女の生誕二百五十年を記念する快挙であったが、一歳年下で彼女との幼い伝説的エピソードも微笑ましいモーツァルトが、一別以来一年あまりの一七六四年元旦、神童の令名を天下に轟かせた「鏡の間」をはじめ、王太子ルイ・オーギュスト（後のルイ十六世）との絢爛豪華なる婚儀が厳修せられた「ルイ十四世聖堂」。ラスト近く、宮殿に押し寄せる群衆に誇り高き頭を深々と垂れたあのバルコニー。あの幾何学庭園。対照的な英国風庭園に囲まれたプチ・トリアノンの内部など、日頃「立入り禁止」の聖域にカメラが持ち込まれるという、特権的な「ホンモノ」志向を、完

壁なまでに映像化するのが、前作『ロスト・イン・トランスレイション』に引続き、撮影監督を勤めるランス・アコードだから、前作における「パーク・ハイアット東京」のディテールを思い返して貰えば、「ホンモノ」感の質がご想像頂ける筈だ。

だが、この映画の「ホンモノ」志向は、このレベルに止まるものではないことを感得させるのが、普通「大道具」「小道具」と呼ばれる、作品のディテールである。これらはヴェルサイユ宮殿が「ホンモノ」であるという意味においては「ホンモノ」とはいえないが、より深い意味において「ホンモノ」なのだ！ソフィア・コッポラ監督の言葉を引用しよう。「私がイメージするマリーの精神の本質をデザインの中に反映させようと考えました。」だから歴史映画にありがちなアンティークな色に逆らい、明るく、軽く、シャープベットのような色と、最先端のモードをちりばめることによって、贅の極みに住んでいたマ

リーの内面の、反映として「ホンモノ」である筈の「小道具」が整えられ、一例を挙げるならばマリーが特に執着したものの一つ、靴に関しては、かのイメルダ・マルコスのコレクションなど遠く遠く及ばぬ、百花繚乱、怒濤の如き靴、靴、靴が、「現代最高のトレンド・セッター、マノロ・ブランクによって用意された」とある。

しかも、彼女の内面を反映する「ヴィジュアル」は、マリーの成長につれて変化し、彼女の芸術的なセンスが表れたプチ・トリアノンでは、マリーのスタイルはよりナチュラルで軽くなり、ヴェルサイユでの生活の最後には、やや暗く質素になる」との演出意図によって浮彫りにされる、より深いレベルにおける「ホンモノ」志向が、ヴィジュアルとして観客たちにも共有されるに当って、俳優たち——特に主役のキルスティン・ダンストの全身から発するオーラと、巧まぬ演技が果している役割には、最高級の讃辞を呈すべきである

う。

蛇足を三本。

一、ラスト・シーン、マリリーがヴェルサイユに「別れを告げる」のは、一七八九年十月六日のことであるが、一七八九年という文字がチラリとラスト・シーンで読みとられる映画があった。(何回も見うるうち、それに気付いたのである。) スタンレー・キューブリックの『バリー・リンドン』(一九七五)。或る意味でコッポラとは対照的な「ホンモノ」志向を貫徹させるために、キューブリックは当時NASAが開発した特殊レンズを駆使して、ローソクの照明のみによる、十八世紀の大晩餐会シーンの撮影を敢行し、ほのぐらく、かつ明瞭な「ホンモノ」の迫真性で観客を唸らせたのだが、当時の筆者が少なくとも十回は映画館に通った動機はといえは少し不純で、十八世紀ヨーロッパ風俗の具体例探索のためだった。職掌から読む十八世紀イギリス小説

の、文字だけでは把握できぬ「しぐさ」や装身具のディテールが、一九七六年アカデミー賞、コスチューム部門受賞との折紙つきで、惜しげもなく披露されているのを、ワンカット、ワンカット網膜に焼き付けようとしたのだ。

このチームのメンバーたりしミレーナ・カノネに「衣装デザイン」の指揮を委ねることによって、コッポラ監督の前記演出意図が、広くかつ肌目こまかくヴィジュアライズされ、豊饒なるシーンの数々に展開して行く『マリリー・アントワネット』が、カノネにとつて三番目のアカデミー受賞作となることは、まず間違いあるまい。

二、一七七〇年五月十六日の成婚から一七七七年八月三十日まで、マリリー・アントワネットは「処女妻」であった。この年の四月から五月にかけて訪仏滞在した、マリリーの実兄ヨゼフ三世のアドヴァイスにより、夫君ルイ十六世が「割礼」のオペを受けることで難関

古き伝統技

三代にわたる信頼

浄土宗法衣専門

有限会社

古島法衣店

〒114東京都台東区元浅草4の2の1

電話(03)3842-1289

振替00180-2-45231

が克服された。「ロスト・イン・トランスレーション」の、一時的ながら文字通り「空閨」状態に放置されているヒロイン・シャーロットと、空間的には「空閨」ならずして肉体的には「空閨」を強いられていたマリーと。前者に扮するスカーレット・ヨハンソンの瞳に漂う憂愁。後者のご乱行を熱演しつつ、キルスティン・ダンストが時に垣間見させる、底知れぬ倦怠の視線。ソフィア・コッポラは父フランシス・コッポラの呪縛の及ばぬ領域を

闊歩している。

三、『バリー・リンドン』は、十八世紀ヨーロッパ社交界の「太平楽」を画きつつ、ラスト・シーンにチラリと示される「二七八九」によって、背後に迫っている大激動を観客に察知させる。この秘められたメッセー^九ジに筆者が気付いたのは、受験期に記憶した「火縄^七くすぶるバスチーユ」なる暗記法のご利益であつた。

(長野・十念寺住職)



FORUM

浄土の広場

「浄土の広場」では

読者の自由な参加をお待ちしています。

詩、エッセイ、短歌、俳句、川柳、書評、映画評、

TVウォッチング、紀行文、その他創作等。

あるいは会員各寺院での催しの告知、報告など。
どしどし編集部にお寄せ下さい。

浄土誌上句会

●寒紅

〔特選〕着替えして寒紅そつと拭く夜かな 井村 善也

寒紅はその発色が最もよいという。その紅を引き、正装して出かけることがあったのだろう。帰宅して着替えをすると、口紅をそつと拭いて落とす。軽く心地よい疲れのようなものを句から読みとる。

〔佳作〕ほんのりと寒紅として童女めく

河合富美枝

寒紅や墓前に揃う三姉妹

内藤 隼人

寒紅や少女はすぐに笑い出す

千駄木敏郎

●去年今年

〔特選〕子に抱かれ坐る便座や去年今年

片桐てい女

不自由な身は、毎日誰かの厄介にならなければ過せない。家で世話ができなくなると施設に行くことになる。この句は家の人が面倒

が見てくれているのだ。こういう句は増えてくるのだろう。

〔佳作〕有耶無耶に話引きずり去年今年

佐藤 雅子

お茶碗に画鋏を集め去年今年

横浜 裕子

座右の書手垢に汚れ去年今年

浜口 佳春

●自由題

〔特選〕武士の墓草盗人に囚わるる

増田 信子

武士の墓だというのだが、今は守っている人も絶えてしまったのだろう。草が生え放題で、近づくとやぶじらみのようなのが、服の裾にくっついてくる。今はそれらが墓を守っているのだ。

〔佳作〕膝小僧冷えてドラマのエピローグ

山王 吾郎

小春日の海はたはたとへり響く

石原 新

秋の雨レインコートの犬が行く

山口 信子



白魚 草の芽 自由題

兼題

浄土誌上句会のお知らせ

締切・二〇〇七年一月二十日

発表・『浄土』二〇〇七年四月号

選者・増田河郎子（『南風』主宰）

応募方法

●いずれの題とも数の制限はありません。

●特選各1名・佳作各3名

葉書に俳句（何句でも可）と、住所・氏名を必ずお書き下さい。

宛先

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内
月刊『浄土』誌上句会係

寒紅

一筆の寒紅淡く傘寿かな

河合富美枝

寒紅を丑の日に買う果報かな

金谷 友江

寒紅引く女ごころを失わず

片桐てい女

老舗より舞妓出てくる寒の紅

佐藤 雅子

寒紅や箆笥に眠る淡き恋

中島富士子

寒紅の少女耽じらう笑い顔

洪口 佳春

疱疹も遠くなりたり寒の紅

増田 信子

去年今年

新設の垣の構想去年今年

金谷 友江

去年今年余白の多き思ふなり

中島富士子

去年今年母の形見のちゃんちゃんこ 増田 信子

荒れた手を褒めて重ねる去年今年 石原 新

去年の目に今年の眼鏡合せけり

河合富美枝

自由題

山晴れて光り満ち来る朝紅葉

河合富美枝

冬の匂ひすると云ひゆく園児かな 佐藤 雅子

地にありて風とたはむる枯葉あり 中島富士子

瑞雲の四海に映ゆる利尻富士 工藤 浄真

甘酒や躰温め初日の出 飯島 英徳

極楽の土のついてる根深葱 狭山 掉

夜烏の鳴くや何処かでクリスマス 袴田 阿形

底冷の底に草の芽らしきもの 十条 苑を

のつたりとほうれん草を茹でにけり 坂下 優子

寒の入り仁王の指の欠けたまま 本郷 桃児

隣から台湾歌謡海鼠囃む 鳥羽 梓

本日の妻の不機嫌寒たまご 井草 芳郎

初雪はリセットボタン髪を切る 鈴木真理子

点描の水面の冷えてゐたりけり 横浜 裕子

一日を了えて冬陽の金魚鉢 目黒 裕

37 かい

かまち♡お3う



浄土門主
総本山知恩院門跡第八十六世

中村康隆

大本山増上寺
法主

成田有恒

大本山 百萬遍知恩寺
法主

服部法丸

〒606・825 京都市左京区田中門前町一〇三

大本山清浄華院
法主

大田秀三

大本山善導寺
法主

阿川文正

大本山光明寺
法主

宮林昭彦

鎌倉市材木座六・十七・十九

浄土宗宗務総長

稲岡康純

浄土宗大願寺住職
浄土宗議会議長

神谷英敏

大本山増上寺執事長

江口定信

〒105・0011 港区芝公園四・七・三五

法然上人御誕生地

美作 誕生寺

〒709・3602 岡山県久米郡南町里方八〇八
TEL 〇八六七 (二八) 二二〇二
FAX 〇八六七 (二八) 二二六二

〒154・0017 世田谷区世田谷四・七・九

大吉寺

住職 成田昌憲

函館 称名寺

〒040・0055 函館市船見町十八・十四
電話 〇一三八 (二三) 〇五七四

長野教区
十念寺住職

袖山 榮真

〒380・0845 長野市西後町一五六八

清水湊

忠高山
實相寺

〒420・0839 静岡市葵区鷹匠
二丁目二四番十八号

玉桂山
華陽院

電話〇五四（二五二）三六七三
FAX〇五四（二五二）三六五六

(学)大乘淑徳学園理事長
淑徳大学学長

長谷川 匡俊

〒174・8645 東京都板橋区前野町五・五・二

学校法人 淑徳学園

理事長 麻生 諦善

淑徳学園中学校・高等学校

校長 川添 崇

塩釜市

雲上寺

東海林 良雲

本應寺

熊谷 靖彦

〒844・1411 嬉野市塩田津中町

学校法人 浄土宗教教育資団

理事長 水谷 幸正

弘経寺住職

(財)浄土宗報恩明照会理事長

金田 進徳

〒302・0023 茨城県取手市白山二・九・二八

孤峰山 蓮馨寺 吞龍上人奉祀
宝池院

教誨師・大正大学講師

糸原 恒久

〒350・0066 川越市連雀町七・一
電話〇四九（二二二）〇〇四三
FAX〇四九（二二二）〇六七六

養運寺

田中 光成

〒194・0032 町田市本町田三六五四

平成十九年

赤坂六地藏尊

浄土寺

〒107-0052 東京都港区赤坂四・三・五
電話〇三(三三八三)三六三〇

明福寺

福井豊信

〒132-0013 江戸川区江戸川三・八・一

愚鈍院 こつぶがや文庫主

中村眞道
中村瑞貴

〒984-0051 仙台市若林区新寺三・一二・一七
電話〇二二(二五六)六〇五七

鶏頭山安楽寺

飯田實雄

〒399-4115 駒ヶ根市上穂栄町九・五

宗源寺

齋藤价洲

〒110-0015 台東区東上野五・一・六

勝願寺

〒365-0038 埼玉県鴻巣市本町八・二・三二
電話〇四八(五四二)〇二二七

骨仏の寺

一心寺

〒543-0062 大阪市天王寺区逢阪二・八・六九
電話〇六(六七七一)〇四四四

白本尊阿弥陀如来

静岡 宝台院

住職 野上智徳

貞松院住職

山田和雄

〒392-0004 諏訪市諏訪二・一六・二二
電話〇二六六(五二)一九七〇
FAX〇二六六(五二)三四四六

〒112-0002 東京都文京区

小石川三丁目十四番六号

無量山

傳通院

電話〇三(三八一四)三七〇一(代表)

定義如来

西方寺

〒989-3213 仙台市青葉区大倉字上下一
電話〇二二(三九三)二〇一一
HomePage: <http://www.johgior.jp/>
E-mail: saihouji@johgior.jp

謹賀新年

平成十九年

花巻 廣隆寺

谷地玄雅

九品阿彌陀如来

淨眞寺

〒158・0083 世田谷区奥沢七・四一・三
住職 清水英碩

願行寺住職

佐藤成順

〒140・0004 品川区南品川二・一・一二一

梅窓院
住職

中島真成

東京都港区南青山
2-26-38
電話 03 (3404) 8447
ホームページ
<http://www.baisouin.or.jp>

鎌倉大仏殿

高德院

〒248・0016 鎌倉市長谷四・二一・二八
電話 〇四六七 (二二二) 〇七〇三
FAX 〇四六七 (二二二) 五〇五一

横浜

大光院

www.daikoin.com

天光院

真野龍海

<http://www.evam.ne.jp/tenkoin>
ryumano@venus.dlne.jp

光円寺住職

佐藤良純

〒112・0002 文京区小石川四・一二・八

光取寺

大室了皓

〒141・0021 品川区上大崎一・五・一〇
電話 〇三 (三四四二) 八三八四

編集後記

初春やめでたきことは雲の中 岱潤

我が宗では、昨年暮れ宗務総長始め内局が総辞職するという事態が起きた。私も月刊誌など雑誌の編集をする者にとつては大変なことで、大騒ぎとなった。七億円もの預金の消失という横領事件があったのだから、その責任をトップが取るのは当然のことだという意見もあるのだが、次が保障されているような辞任だとしたら、責任を取ったとはいえない。個人の責任を追求するだけではなく、末寺の我々までもが納得出来る、責任の取り方、処罰の方法はないものだろうか。今年亥年。猪というところ「猪突猛進」が頭に浮かんでしまい、その荒々し

さや、においの臭さ、農作物を荒らす害獣とあまり良いイメージのない猪だが、本来は臆病で用心深く、頭が良くて家族思いの動物だという。とにかく多産で、いつも群れや家族で行動しているというから、むしろ現代の日本人が見習わなければならぬ点が多いようだ。

巻頭のひろ先生のご示唆を受け、我々僧侶がもつともつと考え、発言して行かなければならない時代になっていることを益々感じる。年が改まり、今年こそという思いを正月くらいはしっかりとて、次の月へと意志だけは継続させた

(長)

雑誌「浄土」
特別、維持、賛助会員の方々
飯田実雄(駒ヶ根・安楽寺)
巖谷勝正(目黒・祐天寺)
江口定信(浦安・大蓮寺)
大江田博導(仙台・西方寺)
大田秀三(大田山・清浄華院)
北山大超(焼津・光心寺)
熊谷靖彦(佐賀・本應寺)
桑原恒久(川越・蓮馨寺)
佐藤孝雄(鎌倉・高德院)
佐藤成順(品川・願行寺)
佐藤良純(小石川・光圓寺)
東海林良雲(塩釜・雲上寺)
須藤隆仙(函館・称名寺)
袖山榮真(長野・十念寺)
高口恭行(大阪・一心寺)
田中光成(町田・養運寺)
中島真成(青山・梅窓院)
中村康雅(清水・実相寺)
中村瑞貴(仙台・愚鈍院)
野上智徳(静岡・宝台院)
樋口隆信(石巻・西光寺)
藤田得三(鴻巣・勝願寺)
堀田卓爾(静岡・華陽院)
本多義敬(両国・回向院)
真野龍海(芝・天光院)
水科善隆(網代・教安寺)
宮林昭彦(長野・寛慶寺)
宮林雄彦(大田山・光明寺)
山田和雄(横浜・大光院)
(敬称略・五十音順)

ホームページ <http://gekkkan-jodo.info>

編集チーフ
編集スタッフ

長谷川岱潤

斎藤晃道

佐山哲郎

青木照憲

村田洋一

編集顧問

大室了皓

浄土

七十三巻一月号頒価六百円
年会費六千円

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可

印刷

平成十八年十二月二十日

発行

平成十九年一月一日

発行人

真野龍海

編集人

佐藤良純

印刷所

株式会社 シーティーイー

〒一〇五・〇〇一一

東京都港区芝公園四・七・四明照会館内

発行所 法然上人鑽仰会

電話 〇三(三五七八)六九四七

FAX 〇三(三五七八)七〇三六

振替 〇〇一八〇・八・八二八七

連載

教えと法話

如^に是^よ我^ぜ聞^が
もん

かくのごとくわれ聞けり
無量寿経

生野善應

亜細亜大学講師
東京高輪・光福寺住職

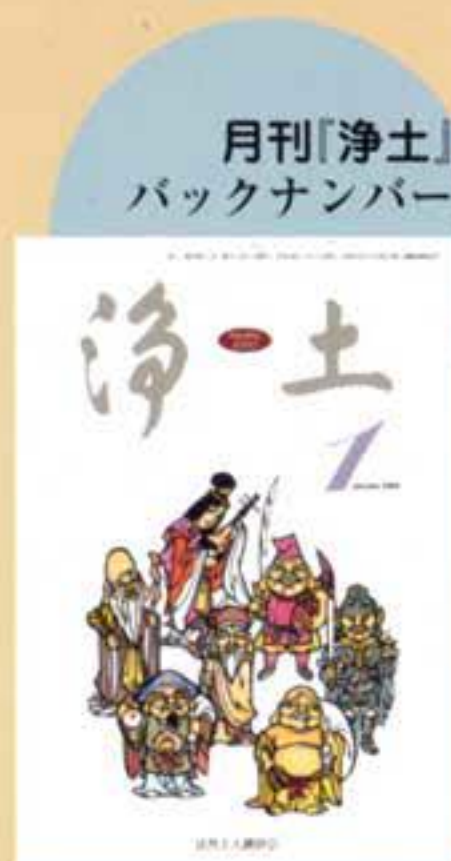
謙虚に、人の意見を聞くことは、
社会生活の基礎である。

鎖国時代、幕府最高顧問の新井白石は、切支丹禁令で捕らえられた宣教師シドテイに西洋の政治情勢、世界地理を聞き、基督教の教義をも尋ねています。

「其人、博聞強記にして」、優れた能力の人と称えて、謙虚に話を聞き、さらに海外諸国事情に関心

ある人と知識を共有するべく『西洋紀聞』を記したと述べています。さらに、地名など固有名詞の音写には特段の気配りをしたといわれております。白石に学者、政治家としての卓越した力が感じられます。

法然上人鑽仰会の



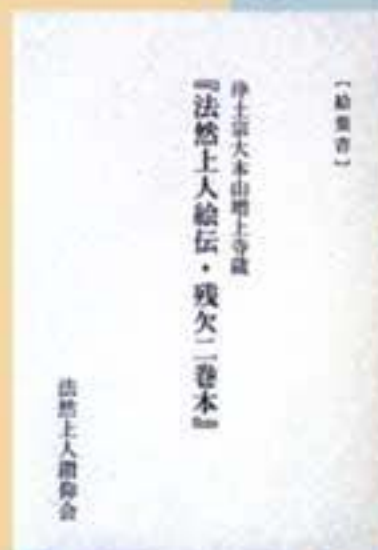
※額装寸法 47 × 59 cm



選擇集十六章之図(額入り)
『選擇集絵解き物語』含む
20,000円 (別途梱抱料300円)



「法然上人絵伝絵葉書」
(8枚セット) 800円



委託販売

増補版『浄土への道
法然上人法語抄』
1,000円



『ブッダ
知れば知るほど』
1,000円



※浄土宗大本山増上寺蔵
「法然上人絵伝・残欠二巻本」より

当会発行の書籍、雑誌のお求めは、
当会へお申し込みください。なお、月
刊『浄土』を除き価格に送料は含まれ
ておりません。別途実費を申し受けます。

法然上人鑽仰会
電話 / 03-3578-6947
FAX / 03-3578-7036